7.他のキリスト教諸派とともに

質問 ： 皆さんの教会は、他のキリスト教諸派の兄弟姉妹とどのような関係性をもっていますか。
どういった分野に彼らは関心があるでしょうか。彼らとの対話の実りと妨げは何でしょうか。

プロテスタントとの垣根は意識するが、キリスト者として何ら変わりはない
キリスト教諸派とは、年に１回「キリストと平和を作り出す市民の集い」により行動している
年に一度、キリスト教一致集会がある
朝祷会（５つの宗教団体）への参加
毎年3月に「世界女性デー」の集いが、他のキリスト教諸派とともに行われ、参加し、関心を持ち、交流

他宗教団体（８宗派）とは、市民へのアピールのため「宗教懇話会」を結成し、頻繁に活動
市内キリスト教の世界祈祷日が 4 月に行われ、プロテスタント 5 教会、カトリック 2 教会が参加し、礼拝式の後分かち合い等交流がある
世界祈祷一致週間に、５つの諸教派が集まって３月に賛美集会と祈りを実施
年に一度の世界祈祷日の集いへの参加
福音宣教の目的で、11 月に地区５教派の賛美集会と祈り分かち合い実施
聖公会と日本基督教団の教会とは、8月に平和の集いを行うため交流が続いている
(他教派と)人権研修等を実施し、価値観の共有ができるよう検討中である

平和行進をするお坊さんが8月に教会に宿泊する
隣のプロテスタントの教会とは今まで様々な関係があった
プロテスタントの信徒とは、同じキリスト者として、クリスマスやイースターの喜びを分かち合えるのが良い
クリスマスは宗派関係なく誘いやすく声もかけやすい

互いに価値観を共有できる、越冬炊き出しのような活動に参加
礼拝や集会に参加すると喜ばれる
キリスト教連合会に参加
プロテスタントの友達との情報交換
個人的にはできるだけ参加しようとはしている(今はコロナでない)

コロナ禍以前４年に１回キリスト教音楽祭を行い、キリスト教諸派と共に合唱する機会があった
知り合いが通うプロテスタント教会のバザーに行き、買物や食事をしながら意見交換の場をもっている
他の宗派や宗教が主催する行事に参加して共感することがあれば良さを分かち合い、人間関係を大切に
隣接のプロテスタントの教会の活動のために教会の広い炊事場を活用してもらっていたことがある
プロテスタントの知人も大勢いるが、関わりを深めるに違いを否定するより共に祈ることに重点を置く

個人的に福音教会の方々と交流することはある
個人的にはプロテスタント教会の幼稚園のバザーなどに参加
個人的に他宗派の方の行動、困っている人がいると考えるより先に手を差し伸べる姿勢に学びがあった

他のプロテスタントの教会と互いに訪問しあい、ミサや礼拝に参加するのはよい
聖公会の司祭が挨拶に来られ、開催している講座のパンフレットを持参された
プロテスタントに教会の施設を貸すことに反対論もあったようだが、良いことはやればよいという宣教師の一言で決定されたと聞いている
バザーやコンサートなどのイベントの機会は声をかけやすい
交流があった時は、お互いの教会のバザーなどの行事に協力していた
たまに他の教派の人の教会の催しに行く

他の宗教の人と話すことは面白く、カトリックとの違いや似ている点を知ることで、カトリックの良い点や足りていない点を確認することができる
プロテスタントの葬式に参加して、わかったこともあるので、互いに理解しあわないと深まらない
教派に関わらず訪れる人を迎えるオープンな教会の寛大さ、個人として接する姿勢に神の愛を感じた

認知症の人の見取りについて、話を聞いてほしいと呼びかけたことがある、隣の教会の者と知って親身に聞いてもらった、宗教の垣根を作らず、ざっくばらんに広い心で接することだと学んだ、私たちは神とつながっており、神は全ての人とつながっている
他宗教であっても信仰について語り合えること
福音宣教活動への関わりを強め、話し合いたい
対話の実りは、心から思っていることを出せればつながれると思う

それぞれの宗派の信仰を尊重し、自分が求める宗派の信仰を深めれば良い
キリスト教諸派と兄弟姉妹だが、司祭と牧師という呼称のちがいなど、互いに意識はしている
他のキリスト教諸派との交わりの経験はありませんが、特に偏見はない
プロテスタントと、寺院と関わりをもっているが、偏見よりも優しさ・豊かさを感じる
プロテスタントの信徒がミサに参加して交流を求めておられる
プロテスタントの牧師の説得力に学んだり、利用したりする
プロテスタントの聖餐式に参加させてもらったことがある
プロテスタントの教会の集いに行けない時、ミサに参加される人を受け入れている
積極的というより呼びかけがあると協力する形で進めることになる
司祭と出会い他宗派から改宗したが、クリスチャンとして、キリストの望まれるように生きたい

神は心のよりどころなので、いかなる宗教も尊重すべきだ
日本は多宗教で、互いに無関心が普通だが、葬儀や供養は心を込めて行えば共通点がある
個人的にプロテスタントの教会を会場として趣味のグループで利用している
隣の立正佼成会と交流する
氏子も仏教徒もキリスト教徒も、自分の宗派への信仰を明らかにしつつ、協力しあっている

〈課題〉

寛大なこころ、敬意を忘れずに接する
偏見を持たずに受け入れることが大切
違いを認めることが大事
具体的な目的をもって一つの行事を共有していくことが望ましい
困っている人への支援活動への参加を手掛かりにキリスト教諸派との草の根的な交流から始められる

他のキリスト教諸派との交流は希薄、関係性はもてていない
他宗教の方ともっと関わりが不足している
対話、交流はそれ自体、関心が無いのが実情
エキュメニカルな祈りは現在行われていない
プロテスタントを含む他宗教との話し合い・交流は昔あったが今はない
現在交流はない、少数ながら交流したいという声はある

他宗教の人々との一致のためのイベントも、数年に一度ある程度
数年前に近くのキリスト教諸派の教会の記念ミサに参加したが、その後接触なし
以前はキリスト教諸派とクリスマス会、復活祭の祈りの会があったが、スケジュール調整が難しく消滅
世界祈祷日は殆どお世話役の方のみの参加、諸派宗の兄弟姉妹と活動の報告をとおして意見の交換も義務的な感じ

他宗教とのイベントの打合せや参加する人はほんの一握り
他のキリスト教諸派の方と話したことなし
他のキリスト教諸派とはほとんど交流がないので、その必要性を感じる
他のキリスト教諸派の教員もいるが、関係性を持てる機会が少なく、現実的に難しい面がある（教育施設）
他の教派の人と個人的に友達になり、不定期に連絡をとって、悩みを聞きあう
昔キリスト教団の教会が近くにあり、行事がある時お互いに行き来して交流があったが、今はない

対話はあるが、実りの実感はない
宗教観については深く話し合わない
他のキリスト教諸派の人々との対話や協力を進めるには、十分な準備及び知識が必要
他宗派をよく知らないから対話しにくい、だから、話し合うことが不安
他宗派との交流に参加する人は宣教に関心をもっているが苦心もある
関りはあっても人間関係の発展までには至っていない

プロテスタントの信徒が、カトリックの信徒は聖書を読まないと誤解していることに驚いた
関わりはないが、偏見があると感じる、分かり合うためには対話の場があるといい
同じキリストを信じる仲間として、今後は、接する機会を設けることが必要であると考える
他のキリスト教諸派の方が訪問に来られるが、怖い、面倒、勧誘されるという恐れがあり、接触を避ける

互いに宗教について議論すると、こちらの勉強不足がありとても不安
お互いの信仰について知らないままで対話を考えたこともない
マリアに対する崇敬などの理解が異なるために対話が難しい面がある
個人で他宗派の方や他宗教の方と話すことがあるが、組織として交流するには評議会で具体化していくしかない

偏見や変なプライドがあり、根本的に相いれないような気がする
カトリックが本物だという過去の異端審問などの感覚が未だにある
殺し合い、ののしり合ったころの記憶が消せないという人もいる
宗派が違うので積極的に話し合いたいとは思わない
キリスト教他宗派を拒絶はしないまでも興味を示す方、積極的に交流を望む方はそれ程多くない

プロテスタントの方と傾聴ボランティアをしたが、信仰の話はさける雰囲気で、一緒に祈れなかった
プロテスタントでは朗読箇所が統一されていないと感じることがあった、牧師の考えの違いも気になる
協力することに意義があると感じていないという人もいる
教会はミサだけしていれば良いし、ミサをするにはプロテスタントと協力する必要などないという人もいる

自分の周りの人々は仏教で神を見つめる人はいない
他の宗教が圧倒的に多数派の社会の中でどのような信仰生活が送れるかわからない
多様性は大切という場合、他宗教も尊重すべきだということでよいのか
司祭と牧師の違いを大きく感じる、牧師は自分の生活があるから欲が目立つ気がする
止揚学園以外のプロテスタントの方とは交わりがない

ウォーカソンで共に歩いた止揚学園の方の小さく弱い立場の人々への接し方、生き方に感銘を受けた
個人的にプロテスタントの人と知り合いがいる、彼等は宣教にとても熱心で見習いたい
近隣のプロテスタントの教会は放課後デイサービス、障害児の学童保育を始めた
エキュメニカルな働きかけがプロテスタントと比べるとカトリックは遅れている
近隣のプロテスタントの教会は外に向かっての活動が活発だが、自分たちには体力がなく外に向かう活動はない

隣のプロテスタントの教会では、宗教者平和の夕べなどやっている
プロテスタントの教会に置かれているパンフレットは工夫されていると感じる
プロテスタントの信仰教育に学ぶ点がある
プロテスタントとの壁をうち破り、仲間として一緒になれるように手伝いたい

持続的に活動するには、他の小教区との協力が必要
隣接のプロテスタントの教会は他団体の受け入れに積極的で慣れているが、カトリックは他団体を受け入れることに慣れておらず、懐疑的でさえある
歴史、伝統、風土に培われてきた日本人の宗教に対する情緒的感覚と、現在の教会の理屈っぽさに隔たりがある
「エホバの証人」「モルモン教」の信徒の方が訪問してこられたとき、警戒して関係性を断っている

経済的な負担や練習場所や指導者の確保の難しさのため、またコロナ禍で音楽祭は断念
コロナ前は他のキリスト教の人達とも合唱の関りがあった
コロナの影響で、バザーやパーティなどの交流の機会が全てなくなった

地域のプロテスタントの教会と三教会で年に一度話し合いが持たれた時代もあったが、司祭や牧師が変わり、互いに必要性を感じなくなり、自然消滅した
司祭が変わって方針が変わり、「汚さず、窓閉め、ガスの元栓チェックなど責任をもってやるように」という意見に押され、消滅した
所属する小教区を守ることに流されている現状
少数派である日本のカトリックは、他のキリスト教諸派とどのような関係性をもっていくのか分からない
神のことは考えても、人のことには関心がないというのが今の教会